

道徳科 学習指導案

指導者

1. 日時 令和5年9月25日(月)第6時限(14時40分～15時25分)
2. 場所 第6学年3組教室
3. 学年・組 第6学年3組
4. 主題名 【明るく生きる】正直、誠実
5. 単元(題材)名 手品師(教科書:東京書籍)
6. 単元(題材)の目標 手品師の自分の夢を叶えたいという気持ちも、男の子との約束を守りたいという気持ちも、どちらも自分の気持ちに偽りのない事実である。これらの手品師の気持ちの葛藤を通して、「誠実な」生き方について考え、「誠実な」生き方を大切にする心を育てる。
7. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心がけようとする姿勢をもつことが大切である。

過ちや失敗は誰にも起こりうることである。そのときに、ともするとそのことで自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがある。しかし、そのような振る舞いはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。このことによって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。

それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさでもある。このような誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが重要である。

そこで、他の人の受け止めを過度に意識する高学年のこの時期に、真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にし、自分の良心に従って行動しようとする心情を育てていくことが大切である。

(2) 児童について

本学級の児童は、最高学年として、共に協力し合いながら楽しく運動会の練習や日々の生活に取り組んでいる。また分け隔てなく接することができ、互いの苦手なことを助け合っている姿も見られる。一方で切り替えが苦手であり、クラスの一部の児童の「ちゃんとしてよう」などといった真面目な声掛けがないがしろにされている光景も見られる。先日、道徳で行った「おばあちゃんのさ

がしもの」という教材においては、おばあちゃんの気持ちを考えることなく、どうすれば自分が利益を得ることができるかということに重きをおき、自分本位の話し合いに夢中になってしまう児童がいた。また物語に入りきれていない児童もいたため、物語の内容は確実におさえることを心がけたい。道徳の授業においては、苦手な児童が複数いる。そのため、子供たちの価値観を揺さぶりながら、道徳的価値を実際に行動に移すことができるたり、より良く生きるためにどのように活かしていくのかを考えさせたい。

(3) 教材について

本教材は、大劇場に立つことを夢見て努力している手品師が主人公である。そんな手品師が寂しそうにしていた男の子との約束と夢見ていた大劇場に立てるチャンスとの間で葛藤をする話である。手品師は悩みに悩んだ末、男の子との約束を果たそうと決心したのである。

そこで導入ではあらすじを確認し、手品師の葛藤する気持ちや手品師と男の子との特別な関係を捉える。そして、あなたならどうするか？と自分事として考えられるように発問を設定し、児童の価値観を揺さぶることができるような声掛けをしながら、授業を展開していく。

8. 評価の観点

手品師の誠実さから学んだことについて考え、自分との関わりで考えている。(ワークシート・発表)

9. 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	◎主な発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	教師の話聞く。 教師の範読を聞く。 物語のあらすじを確認する。 (手品師の気持ちの葛藤まで)	◎どんな手品師ですか？ ・うではいい ・あんまり売れてない ・大劇場に立つことを夢見ている ◎どんな男の子ですか？	道徳的価値「誠実」について興味を引く話をし、教材を学ぶ動機づけをする。 聞きながら、挿絵を提示する。 男の子の境遇から、

		・小さい ・道にしゃがみこんでいる ・お父さんが死んでしまった ・お母さんが帰ってこないからさびしい ◎男の子にとって手品師はどんな存在ですか？ ・元気をくれた人 ・さみしさを取り除いてくれた人 ◎手品師と男の子はどんな約束をしましたか？ ・あしたもくる ◎もし、手品師が約束を守らなかったら、男の子はどんな気持ちになるでしょう？ ・裏切られた ・寂しい ・手品師を信頼してたのに… ◎友人からどんな電話がきましたか？ ・大劇場に出られるチャンス	男の子と手品師との特別な関係に気付かせる。
	手品師の気持ちの葛藤について考える。	◎大劇場に出られるチャンスと男の子との約束とで、迷っている手品師はどんな気持ちでしょう？ ・究極の二択 ・荷が重い	どうして迷うのかということからどちらにも正直な気持ちであることに気付かせる。
展開	自分なら男の子との約束と大劇場どちらを選ぶか考える。(理由も)	◎もし、あなたが手品師だったら、男の子との約束と大劇場どちらを選びますか？ 〈大劇場〉 ・二度とないチャンスかもしれない	討論形式にせず、どちらにも共感できるようにする。 一度意見を決めてもらったら、

		いから ・友達がわざわざ自分を選んで誘ってくれたから ・これを機に売れるかもしれないから 〈男の子との約束〉 ・先に約束したから ・男の子が悲しむかもしれないから ・大切な約束だから ・うそつきたくないから ・男の子を喜ばせたいから	大劇場： 男の子は約束していた手品師を心の支えにしていたのに、裏切れば信頼を失ってしまうよ」、 男の子との約束派： 「大劇場行かなかったら迷惑かけるから行った方が良くない？」「あとで男の子にごめんって言ったらよくない」「大劇場行かなかったら、このまま貧乏のままだよ」と揺さぶりをかけていく。 目の前に大きなチャンスがあるにも関わらず、男の子の気持ちに向き合うということが「誠実」と促す。
結末	振り返りを書く		

〈ご講評欄〉